

2021年3月

# 提言書

石見神楽が益田を救う！

## IWAMI カゲラボ

官とか、民とか、連携とか…  
石見神楽のビジョンを作る研究所



# 石見神楽が、 ますだを救う！

# 序文

石見神楽が、ますだを救う！

石見神楽は、島根県西部を中心とした伝統芸能として、現代まで継承されてきた。今やこの地域において、石見神楽を知らない人はいないであろう。だからこそ、石見神楽を振興することは、魅力的なまちをつくる上で、多様な効果を期待することができる。

例えば、石見神楽をやってみたい、続けたいと考える若者を増やすことは、人口減少時代の現代において、人口増加への方策につながるであろう。また、子どもに神楽を体験させることで、人前で話す力、表現力、そして人としての礼儀を養えるなど、教育的な効果も期待できる。さらには、石見神楽を産業化することで、それを目的とした観光客の誘致など経済的な効果も期待できる。なによりも、高度経済成長の中で、画一的なまちづくりが全国的に進んでいった中で、この地域特有の「石見神楽」が残り続けてきたことは、それ自体に価値があり、これからも益田らしさの象徴となり、住民の誇りを生み出すことになるであろう。

石見神楽の振興が、益田の未来をつくりだすことを信じ、この提言書を提出いたします。

## Iwamiカグラボの概要と これまでのあゆみ

「Iwamiカグラボ」は、益田市の石見神楽の保存と活用に向けた将来ビジョンの作成を目的とした検討チームです。

令和2年1月より、石見神楽の今後の展望について益田市と益田市石見神楽神和会とで協議が行われてきましたが、行政や神楽関係者だけでなく、より広く意見を取り入れたいという思いから、公募により神楽ファン等、一般からの参加者も取り込み、令和2年8月からスタートしました。

これまでにない取り組みであった「Iwamiカグラボ」は、ここまで各メンバーがそれぞれの視点から意見を出し合い、主催者へこの「提言書」の提出を目標に話し合いを進めてきました。この「提言書」には益田市の神楽を後世に残したい、神楽を発展させたいという思いと願いも込め、益田市の石見神楽の保存と活用に向けた石見神楽振興の新たな第一歩となるよう作成いたしました。

# IWAMIカグラボからの提言

## 1 企画を考えるための、現状把握

### 現状・課題

益田市民のみを対象とした石見神楽に関するアンケート調査は、これまで行われたことがなく、市民の神楽に対する意識に関する正確な統計がない。

### 提言案: 「市民アンケート」等の実施

石見神楽の次世代への保存・継承、及び石見神楽を活用したまちづくりを行なっていくためにも、石見神楽に対する認知度と印象、さらにはそれらの世代・居住地域による意識の違い等を把握することが必要である。

すでに興味関心がある方だけではなく、益田市民全体の意識を調査することを提言する。

## 2 神楽ファンを増やす、市民意識の醸成

### 現状・課題

令和元年5月20日に日本遺産に登録され、様々なメディアにも取り上げられるようになり、石見神楽の知名度は上がってきている。益田市でも定期公演や神楽大会の実施により神楽を鑑賞できる機会は増えてきている。今後は、更なる新規神楽ファンの掘り起こしに加え、神楽ファン・サポーターとして積極的に石見神楽に関わってもらえる人々「石見神楽関係人口」を増やしていく必要がある。

- ※・関係人口…移住者や観光客ではなく、地域や地域の人たちと多様に関わる人たちのこと
- ・石見神楽関係人口…石見神楽に多様に関わる人たちのこと（造語です）

### 提言案：「石見神楽の日」と「石見神楽WEEK」の創設

石見神楽の新規ファンの獲得を1つの大きな目的として、石見神楽が日本遺産に登録された日（毎年5月20日）を「石見神楽の日」とし、市として制定し、前後1週間程度を「石見神楽WEEK」として、各種催し物などを企画する。市全体で、短期間で石見神楽にまつわる催しを実施することで、市民意識の啓発に繋げていく。併せて、「石見神楽WEEK」に合わせ観光誘客を行うことで市外神楽ファンの獲得、交流人口の拡大にも繋げていく。また、石見神楽に対し熱い思いを持ったファンが、積極的にPR活動等に参加できるような仕組みづくりも付随して検討していく必要がある。

## 3 石見神楽による、観光・産業振興

### 現状・課題

石見神楽の「日本遺産登録」や、県外・海外からの公演依頼もあるなど、産業振興としてのポテンシャルは非常に高いと言える。

ただ、石見神楽に特化した産業振興や観光戦略を企画・運営する体制が整っておらず、積極的な営業(PR)活動や、神楽を活用した産業振興、観光戦略を計画的に企画できていない現状がある。

### 提言案1:

#### 社中を超えた「益田神楽チーム」の創出 と積極的なPR活動の推進

所属している社中を超えて、オール益田での神楽の対外公演を行なう体制を整備する。具体的な例としては、メンバー登録制による、選抜チームをつくり、積極的な営業・PR活動を行い、対外公演等を実施する。また、石見神楽に触れた方が、実際に益田市へ観光に来たり、何かしらの形で関係人口となるなど、神楽を活用した観光や産業の振興などに繋げていく戦略立ても行う。

上記の提言を進めていくためには、民間企業との連携が必要であり、神楽と仕事との両立ができる仕組みづくり等の検討が必要である。

### 提言案2: 益田市内での神楽を活用した観光・産業の振興

現在、神楽に興味を持った方が、実際に益田に訪れた際に、石見神楽に触れる機会が多くあるわけではない。どんなタイミングで来たとしても、石見神楽に触れることができる展示ブースや資料館の設置を検討する必要がある。

また、産業振興を行うために、市内企業と連携を図り、石見神楽の活用について検討を行う必要がある。併せて、SNSや商品パッケージなど、誰もが石見神楽を発信・活用できるように、素材として写真等を提供できるようなプラットフォームづくりの検討も必要である。

## 4 石見神楽の次世代育成

### 現状・課題

石見神楽は、益田市が誇る伝統芸能にも関わらず、すべての学校で教育活動の中に盛り込まれているわけではない。実際は、石見神楽の体験など、子どもたちへのふるさと教育の教材として活用されている学校は限られている。中には、石見神楽と接点を持たずに育つ子どももいると考えられる。

### 提言案: すべての子どもが1度は神楽に関わる仕組みづくり

学校教育のカリキュラムの中で、一度は石見神楽の魅力に触れる授業を実施する。幼稚園・小学校段階では見たり実際にやってみたりする体験の提供、中・高校段階では部活動の創出など、発達段階に応じた関わりしるを提供することが必要である。

また、子どもによる神楽の発表大会の一層の充実など、見る・練習するだけでなく、披露する機会の拡充も必要である。

# 5 すべての土台となる、「推進体制」の整備

### 現状・課題

石見神楽の振興体制について、観光協会、益田市役所に担当者レベルの職員は配置されているが、それに専念して業務を遂行する職員や係は設置されておらず、石見神楽を振興する上で、推進力が乏しい。また、市内の石見神楽団体からなる「神和会」という組織もあるが、取り扱う事項は各社中の保存と継承を前提とした社中間連携である。加えて、神和会に職業としての専属職員がいるわけではない。

上記のことから、石見神楽を市全体で振興するための方策や長期戦略を検討する体制が整っていないのが現状である。

### 提言案: 推進体制の整備

石見神楽を、地域、社中、そして担い手かどうかを超えて、益田市全体で振興していき、益田独自の「益田神楽」ブランドをつくっていくために、既存の枠組みにはない「益田神楽振興団体(仮)」を創設・育成する必要がある。

「益田神楽振興団体(仮)」は、既存の石見神楽に関わる活動の合理化や魅力化のみにとどまらず、石見神楽を活用した産業振興など、新しい価値を創造する組織体を想定している。

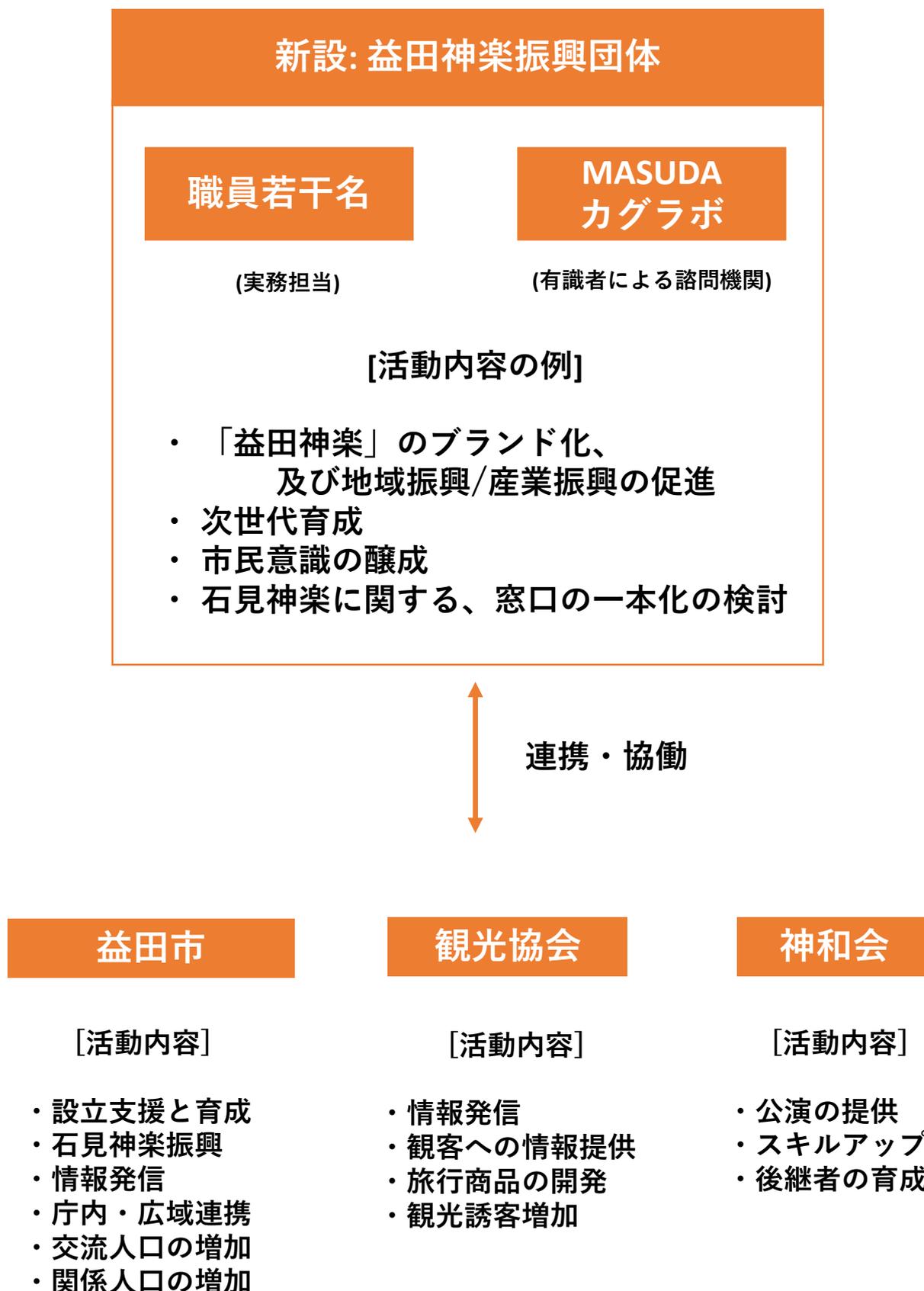
体制としては、組織を運営する若干名の「正職員」と、具体的な活動内容を検討する有識者会議として「MASUDAカグラボ(仮)」によって構成される。「MASUDAカグラボ(仮)」は、既存の「IWAMIカグラボ」の後継として、石見神楽の担い手や石見神楽の振興に理解がある民間人、その他多様な有識者によって構成される。

益田市全体の振興に資する活動を促進していくためにも、「益田神楽振興団体(仮)」は設立に当たって行政からの支援が必要であるが、長期的には過度に行政に依存することなく、活動の継続ができるよう育成していくことが必要である。

### [活動内容の例]

- ・ 「益田神楽」のブランド化、及び地域振興/産業振興の促進
- ・ 次世代育成
- ・ 市民意識の醸成
- ・ 石見神楽に関する、窓口の一本化の検討

推進体制のイメージ図



# Iwamiカグラボ

令和2年8月29日 ～ 令和3年3月13日